

TOPICS

1

隈研吾特別招聘教授による新工学部設立記念講演会を開催



6月11日、新工学部設立と、その目玉の一つである環境・社会基盤系都市環境創成コースに「建築教育プログラム」を新設したことを記念して、隈研吾特別招聘教授による講演会をオンラインで開催しました。学生や関係者、一般の方など約1,300人が参加しました。

隈氏による講演では、建築家を目指すことになったきっかけや大学生時代の恩師からの教えなどをお話いただきました。国内外で設計に携わった建築作品も紹介いただき、建築を学ぶ上での心構えや哲学を教えてくださいなど、建築家を目指す学生たちに向けてエールを送って下さいました。

懇談会では、学生から、CLT技術に関することや、建築デザインの発想はどこからくるのか、といった質問があがりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10341.html



TOPICS

2

岡山県のワクチン集団接種会場へ岡山大学病院の医療従事者を派遣

岡山大学病院は、岡山県が県南部健康づくりセンターで独自に運営する新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場に、6月17日から当院の医療従事者を派遣しています。同日から9月30日(予定)まで、医師3人と看護師11人を毎日派遣する予定です。

立ち上げの1週間は、統括医師1人とワクチン管理を担当する薬剤師1人も配置し、集団接種のスムーズな運用に協力しています。初日は、未接種の医療従事者ら約270人が接種に訪れました。

毎週火～土曜日は5時間(午後1時半から午後6時半)で毎日約450人に接種、日・月曜日は前半5時間(午前9時から午後2時)と後半5時間(午後2時半から午後7時半)で約900人に接種します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10335.html



Pick up!

企業の人事担当者から見た大学イメージランキングで、岡山大学が中国・四国1位に！



日経HRと日本経済新聞社による、「企業の人事担当者から見た大学イメージ調査2022年度版」で、中国・四国地域において岡山大学が総合ランキング1位(全国17位)に輝きました。調査は、2019年4月～2021年3月に新卒社員として各企業が採用した正社員の出身校から人数の多い上位10校を挙げ、その上で各大学の学生のイメージについて「行動力」「対人力」「知力・学力」「独創性」の4つの側面で評価されました。

本学は、「知力・学力」や「独創性」が評価され、全国順位も前年41位から大幅に上がりました。人事担当者からは、「素直で、地頭がよく理解が早い」「真面目で、努力家」などの声があがりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10318.html



TOPICS

3

宇宙の起源を解明する国際共同研究プロジェクト「CMB-INFLATE」に主要な連携機関として参画

本学は、10月に始動する欧州の国際共同研究プロジェクト「CMB-INFLATE」へ主要なパートナー機関として参画し、国際共同研究を推進します。CMB-INFLATEは、欧州の科学技術・イノベーション政策の軸である「ホライズン2020プログラム」の一つ「RISEプログラム」にパリ大学を代表とする16大学・研究機関（日本から4機関）で申請し、2021年2月に採択されました。

本プロジェクトで、宇宙最古の光（宇宙マイクロ波背景放射：CMB）の偏光精密観測により、熱いビッグバンの前に起きたインフレーション起源の原始重力波の強度を測定し、その機構を解明します。

参画する学術研究院自然科学学域（理）石野宏和教授らのチームは、CMB精密観測に必要な系統誤差の評価・軽減と発展的データ解析手法の研究開発を推進しています。この手法は、2020年代後半に打ち上げがJAXAで決定されている科学衛星LiteBIRDのみならず、さまざまなCMB観測実験データにも適応でき、宇宙開闢直後の状態を直接「観察」することを可能にします。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10342.html



TOPICS

4

学生と地域の飲食店支援のための「お弁当配付」プロジェクトを実施



6月7日、地域の飲食店から購入したお弁当を学生に配付する、学生有志による企画「学生×地域『食』で応援プロジェクト」を開始しました。

本プロジェクトは、コロナ禍で経済的影響を受けている本学学生と地域の飲食店の双方を支援することを目的に昨年実施した、「コロナがなんじゃ！Win-Win学生プロジェクト」を踏襲するものです。今年も、本学の学都基金からの援助を基に、大学が地域の飲食店6店舗からお弁当を購入する形で実施しています。

初日は、用意した400食を2か所に分けて配付。約15分間で用意したお弁当すべてを配り終え、お弁当を受け取れなかった学生には、翌日分のお弁当の優先チケットを渡しました。リーダーを務める文学部4年の和田直也さんは「このプロジェクトを一つのきっかけとして、学生の立場でも出来ることがあることを知り、協力者を増やしていきたい。学生だけではなく、地域の店舗、協力いただいている大学を含め『三方よし』のプロジェクトとしたい」と話していました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id602.html

PRESS
RELEASE

弥生時代の争いの原因を検証： 人口増加が重要な要因であることを明らかに

南山大学人類学研究所の中川朋美博士研究員・中尾央准教授と岡山大学文明動態学研究所の松本直子教授ら、東北大学の田村光平助教、国立歴史民俗博物館の松木武彦教授らの研究チームは、弥生時代中期（紀元前350年～紀元30年）に北部九州で起こった争いの原因を検証し、人口圧が一つの重要な要因であることを明らかにしました。

これらの研究成果は6月5日、米国の考古学専門誌「Journal of Archaeological Science」のResearch Articleとして掲載されました。

本研究では、この時期の北部九州で広く見られる甕棺（かめかん）と呼ばれる墓の数から推定された人口圧と、骨に残された傷から推定された争いの頻度の関係を、統計的に考察しました。こうした定量的な考察は、今後の考古学のあり方を大きく変えていこうと考えられます。また、さまざまな考古学的証拠を量的に表現・検討することで、日本だけでなく、海外のデータとの国際的な比較も進んでいくでしょう。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id842.html



右眼窩上部に付けられた新創。
隈・西小田遺跡（弥生時代中期後半）出土

